

学童保育の子どもたちを見守りつづけて

佐藤悦子

岩手県山田町 山田南小学校放課後児童クラブ 指導員

けなかつたりと配慮が必要でした。

夏休みがはじまる頃、通常の施設に戻る事ができました。その頃から、指導員に甘えたり、ときには不満も言ったりと、子どもの姿が変わってきました。自分自身をのびのびと出せるようになったのだとうれしく思いましたが、それまでがんばっていたものの、日常生活が安定してくるにつれ不安定な様子を見せるようになった子どももいました。

震災前から気をつけていたことですが、震災後は子どもの人数が増えたことから、指導員が一人では把握しきれないことが少なからずあるようになりしました。だからこそ、指導員同士がコミュニケーションをはかり、子どもの様子を伝えあい、共通理解するよう努めています。私事ですが、私自身も被災し、避難所から通勤してました。プライベートがなく、スト

東日本大震災から三年半がたちましたが、復興はまだ進んでおりません。当時のことを思い出しながら、これまでをふり返ってみます。二〇一一年三月、山田町では轟木児童館放課後児童クラブ、関口児童館放課後児童クラブ、山田南小学校放課後児童クラブが実施されていきました。四月から船越小学校放課後児童クラブが開所する予定で準備も整っていましたが、被災してしまいました。新たに採用される予定だった指導員も一名亡くなりました。私が勤める山田南小学校放課後児童クラブでは、指導員も含め半数以上が被災しました。幸い、指導員、子どもたちは下校前で全員無事でした。

四月末に小学校で新学期がはじまることになり、学童保育も再開されることになりましたが、二か所の施設は避難所になっており、唯一使用

できた轟木児童館放課後児童クラブに町内のすべての指導員が集まりました。五月には、関口児童館放課後児童クラブが空き教室を、山田南小学校放課後児童クラブは小学校の図書室を使わせていただけられるようになりました。開設予定だった船越小学校放課後児童クラブは、施設がないことから、轟木児童館放課後児童クラブと併設となりました。

移設以降、山田南小学校放課後児童クラブの利用者は二〇名弱で、新しく入所した子どもがほとんどでした。余震も続いており、子どもを手中におきたいと考えたご家庭も多かったように思います。このときほど、子どもたちが安心して安全に過ごせる場所が必要だと痛感したことはありません。間借りのせいや、または、震災の影響か、何人かの子どもは元気がなかったり、トイレに一人で行

レスが増え、精神的に苦痛を感じていました。そのときは、仲間のおしゃべりで乗りきったような気がします。震災後すぐに行われた研修会で講師の方が、「井戸端会議で乗りきろう」とおっしゃっていたことを思い出します。いつも指導員仲間に助けられています。ありがたいと感じています。

二〇一三年度から、役場支所を間借りして豊間根地区放課後児童クラブが新設され、支援をいただき、施設の建設を待っています。船越小学校放課後児童クラブは二〇一四年度七月から、関口児童館放課後児童クラブ(名称は、山田北小学校放課後児童クラブに変更)は四月から、新しい施設を使用しています。施設が整い、利用者が増えました。私たちの山田南小学校放課後児童クラブはとくに児童数が増えています。待機児童も増えているようです。以前は高学年

になると下校が遅くなり、利用しなくなる場合もありましたが、現在は、仮設住宅が遠くてスクールバスで通学する子どもの多くが学童保育に通いつづけています。

今後、利用が増えれば、施設や指導員をさらに確保する必要があります。給与や労働条件などの課題もあり、勤めても長く働くことができません。こまっています。つきつぎに指導員が替わっていても、子どもがおちつかず安心して生活できません。

最後になりましたが、全国学童保育連絡協議会や岩手県学童保育連絡協議会、全国各地の連絡協議会の皆様、そしてセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの皆様には、震災直後から支援をいただいたき、感謝しております。これからも、学童保育で子どもたちや保護者を微力ながら支えていけたらと思っています。